7

各種発行パンフレット

①メンタルタフネス講座の正規科目化への取り組み
メンタルタフネス講座は、ストレス耐性やメンタルタフネスの不足に対応するため、セルフモチベーション、リーダーシップ、目標設定・目標達成などの理論の背景と実践の演習を組み合わせて学生自身の経験知を高める教育プログラムであり、2年生3月から3年生7月の3回の講座である。講座を受講した学生の多くのは講座の内容を理解し、就職活動での自己分析の大切さやメンタルタフネスへの意識付けも出来たと考えている。

②自己理解促進のための採用面接官の疑似体験（バーチャル人事体験）
自己理解促進のための模擬面接講座は、学生が面接者と面接官の両者、特に通常経験することの出来ない面接官の役割をオブザーバーとして体験させ、企業側のニーズを理解させ、自己理解を深め、自らの職業観を形成させる。学生は、他学生の良い点や改善点を自分の立場に照らし合わせて学んでいく。PROGを導入し、自らが持つ現時点でのジェネリックスキルを理解させるとともに、受講前後の学生の成長度を把握させるようにした。

③地域企業・組織と連携したプロジェクト体験
補助事業全体では社会人基礎力養成を目的として、学生が企業と連携プロジェクトする教育プログラムを展開している。地域企業連携プロジェクトでは、学生が企業をはじめとする外部組織とプロジェクトチームを組んで、独自性と有期性のあるプロジェクトに取り組んでいる。H25年度は、豊橋創造大学経営学部で8プロジェクト、短期大学部で8プロジェクトを実施し、12月に協力企業参加のもと成果報告会をおこなった。

④学生、連携大学、地元企業を含めた3者間の協働によるインターンシップ実施（学部）とアクティブラーニングの手法を使った教育経験の共有（短大）
情報ビジネス学部では、本年度は3年生7名が、サーラグループなど5社・事業所のインターンシップに参加した。10月の報告会では、参加学生が実習内容や実習を通して考察した内容について報告した。報告会終了後には協力企業担当者との座談会を実施し、インターシップの活性化に向けて意見交換を行った。また短大ではプロジェクト活動でのアクティブラーニングに加え、一般授業科目でもアクティブラーニングの手法を取り入れる活動を始めた。アウトプット重視ということで、学生に文章を書かせたり、ディスカッションをさせたり、発表をさせることで学生の変容を把握しようとしている。

プロジェクト活動報告
～プロジェクト活動を通した社会人基礎力の育成～

経営学部経営学科長　三好哲也

社会人基礎力は、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」としてまとめられた能力要素である。主体性、課題発見力、発信力、傾聴力などの能力要素を「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3能力12能力要素としてまとめられている（下表参照）。これらの能力要素は、社会での活動を通して醸成されるものであるが、産業界のニーズとして大学や短期大学部の卒業時に基本的な能力を持つ人材が望まれている。

豊橋創造大学情報ビジネス学部、経営学部、豊橋創造大学短期大学部キャリアプランニング科では、実践教育による人材育成を教育目標に掲げ、専門的知識の養成に加えて社会人基礎力に代表されるような社会人として備える基礎的能力育成をカリキュラムの中で取り組んでいる。その中心的教育プログラムとして、本補助事業で取り組む4つの教育プログラムがあるが、そのひとつに地域企業連携プロジェクトを設定している。

地域企業連携プロジェクトでは、企業をはじめとする外部組織と学生がプロジェクトチームを組んで、独自性と有期性のあるプロジェクトに取り組んでいる。企画・運営・進捗管理・報告といった4段階のプロセスを踏まえた実践を通して、社会人として必要とされる主体性、計画力、状況把握力、発信力の諸能力を養成する。参加する学生は、プロジェクトメンバーである企業人から仕事の水準での助言や指示を受けて活動や報告をすることを通して、企業人として求められる業務水準や役割を理解し、それに基づく自律的に行動できる力の育成を目的に教育を展開している。H25年度は大学および短期大学部でそれぞれ8プロジェクトを実施、学生指導にあたった。　プロジェクト運営にご理解・ご協力をいただい地元団体企業各位をはじめ関係各位にお礼申し上げるとともに、今後も、ご協力をお願い申し上げる。

図表：3つの能力／12の能力要素

3つの能力	12の能力要素	内　容
前に踏み出す力（アクション）	主体性	物事に進んで取り組む力
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力
	実行力	目的を設定し確実に行動する力
考え抜く力（シンキング）	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
	創造力	新しい価値を生み出す力
チームで働く力（チームワーク）	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力
	情況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力

出典：経済産業省「社会人基礎力とは

SOZO 豊橋創造大学
●情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科　●経営学部 経営学科　●短期大学部 キャリアプランニング科
〒440-8511 愛知県豊橋市牛川町松下20-1　地域産業界連携教育力改革プロジェクト委員会（渉外部キャリアセンター内）
TEL.050-2017-2104(直通)　FAX.050-2017-2112(直通)　インターネット［URL］http://www.sozo.ac.jp/［E-mail］gp4@ml.sozo.ac.jp

平成24年度採択 文部科学省 大学教育改革推進事業
産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業

平成25年度版

プロジェクト活動報告

地域産業界連携 教育力改革プロジェクト

事業推進責任者　佐藤勝尚

『産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業』は、三重大学を代表校とした中部圏23大学による「アクティブラーニングを通した教育力および「地域・産業界との連携力を通して、教育改革力を強化する取組である。本学経営学部ならびに短期大学部キャリアプランニング科は、東海Aチームに属して幹事校と副幹事校からなる中部地域大学教育改革推進委員会の調整のもと、連携FDを通して教育改革の実践過程で生まれる成功と失敗を共有しつつ教育力を高め、中部圏産学連携会議を通して大学が育成しようとする資質と地域・産業界のニーズに関する対話を行うものである。また、その地域・産業界のニーズに対応した能力を育成するため、学生参加型授業、共同学習、課題解決学習やPBLなどを教育現場に取り入れ、就業力に関わる学生の能動性を高める改革を進めるとともに社会現場での実践教育としてのインターンシップを高度化するものである。

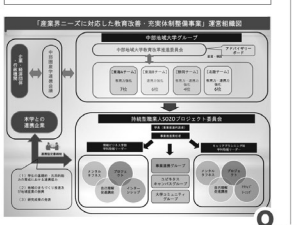
現在、大学における人材育成と産業界のニーズとのギャップについて、最も指摘される点の1つは「学生の主体性・創造性の欠如」である。これは、企業入社後において、与えられた仕事しか出来ない、仕事上の問題点を自ら発見し、目的を設定し、仮説を立て、創造的に解決していくという社会人として必要な姿勢が欠如している状態である。この問題は学生の能力が欠如しているのではなく、彼らがこれまでの人生経験において目的を持って主体性と創造性を発揮する機会が十分に備わっていなかったことにあると考えられる。大学全入時代において各大学の学生サポートが非常に手厚くなる中、学生が「自らの力」で主体的に活動する機会や、創造的に物事を解決する経験が減少していることが原因として推測される。この問題に対応するため、本学では「大学生の就業力育成支援事業」として、これまで情報ビジネス学部・経営学部と同短期大学部キャリアプランニング科が共同で取り組んできた「持続型職業人SOZOプロジェクト事業」を発展させ、右記①～④を柱とした事業展開を進め、学生の総合的な「就業力」の育成を図るものである。

今回のプロジェクト活動報告書では、本事業のうち平成25年度に下記③にある『地域企業・組織と連携したプロジェクト体験』にて実施した学部・短大それぞれのプロジェクト活動の内容について報告する。

最後に、この事業にご理解・ご協力いただいた地元団体企業各位をはじめ、関係各位に御礼を申し上げます。

豊橋創造大学・豊橋創造大学短期大学部

地域産業界連携教育力改革プロジェクト
①メンタルタフネス講座の正規科目化への取り組み
②自己理解促進のための採用面接官の疑似体験（バーチャル人事体験）
③地域企業・組織と連携したプロジェクト体験
④学生、連携大学、地元企業を含めた3者間の協働によるインターンシップ実施（学部）とアクティブラーニングの手法を使った教育経験の共有（短大）
※各事業の内容は最終ページにてご案内しています。



豊橋創造大学短期大学部　キャリアプランニング科

プロジェクト活動

1 食の伝達「大学生コックさんのクッキング教室（こどもクッキング）」プロジェクト活動報告

担当教員:朝倉 由美子　協力:豊橋市こども未来館 ココニコ

近年の食環境の変化で加工品や中食、外食が増えて家庭で食事を作る機会も減り、家庭での料理の伝承（食育）も薄れていると思われる。そこで、子どもの頃から食事を自分で作る楽しさや必要性を学び、技術を身に付けて家庭で調理した食事を家族と共に楽しんで欲しい。そこで調理師コースの本プロジェクトの学生は学んだ調理理論や技術と料理を作る際の段取りを外部に発信することを通して、料理の楽しさを伝えるとともに、コミュニケーション力、技術指導力、全体に気を配る心を育成するために、小学生対象のクッキング教室を実施している。本年度は4回実施しすることができ、毎回担当する部門を変えて常に緊張感の中で主体性を持って実行する力を育成することができた。今後も継続していく予定である。

2 女子力を活かした路面電車の企画提案

担当教員:伊藤 圭一　協力:豊橋鉄道株式会社・豊橋市役所都市交通課

路面電車の企画には女子学生の参加できる企画がないのはなぜか?という疑問から始まった企画です。幸運なことに豊橋鉄道様の協力を得ることができました。彼女たちの意見を企業の方に聞いていただくことで、企業の営業、経営について触れることができました。路面電車の企画に参加して、企業の視点、お客様の視点の両方を感じる機会を得ました。その体験したことを座談会形式で企業の方に聞いていただき、企画の仕方、提案の仕方、企業の在り方を学ぶことができました。

座談会で「うちの会社に入りませんか?」と企業の方から言われて学生がおり、学生たちも企業の方の目を意識できました。また、駅前電停の案内に対する提案をしたところ、実際に「おでんしゃ・ビール電車のりば」の看板付き、提案が通した形になり学生も達成感を得ることができました。

3 豊橋の特産品「うずら」をキーワードにしてプロジェクト活動を展開する

担当教員:今泉 仁志　協力:豊橋市産業部農業支援課

プロジェクト活動のテーマ選定は、毎年悩ましい作業である。iPadで、あれこれ検索する内、現在の「ゆるキャラ」ブームの中、豊橋市の「ゆるキャラ」を見つけ出す学生がいた。なかでも「うずラッキー」は、目新しく、皆にあまり知られてないので、これを採り上げようという話になり、「うずら」を中心に、どんな活動ができるのか議論を進めていった。具体的活動は、「ゆるキャラ」や「うずら」について学習し、創造祭で「うずら卵フライ」を販売する模擬店を開き、「うずラッキー」を大学構内に登場させることにした。学内での水平展開として、調理師コースの学生に「うずら卵」を使ったレシピを考えてもらったり、「ココニコ」で開催している「大学生コックさんのこどもクッキング教室」で「うずら卵」を使った料理を採り上げてもらった。

4 お茶入門プロジェクト

担当教員:木下 賀律子　協力:ごとう製茶・泉園茶舗

調理師・フードコーディネーターの資格取得を目指す学生にとって「茶の知識」を身につけることは、今後社会人になってからも、役立つであろうと考えてこのテーマを選択した。活動内容は【①豊橋市内の茶農家が開催する「お茶作り体験」に参加して、茶摘みから製造までの工程を体験する。②おいしいお茶の淹れ方を学ぶ。③日本茶の専門店に足を運び、煎茶・抹茶等についてレクチャーする。④学園祭で、茶菓を使った作品展示及びカフェを開催する。】などである。学生達は、茶の歴史や健康効果を学ぶと共に煎茶・抹茶・紅茶の3グループに分かれて、それぞれの茶葉についての研修やお茶を使ったお菓子作りに取り組むことができた。今後は、本プロジェクトで得た知見をコミュニケーションツールとして役立てながら、豊かな人間関係を築いていって欲しい。

5 防犯プロジェクト

担当教員:中島 剛・細谷 邦夫　協力:豊橋警察署生活安全課

働く意欲と意識の向上を目指して、「人と人とのつながり、絆を大切にし、社会に貢献する学生生活を送るために、自分たちに何ができるか。」を考え、先輩たちが発足したボランティアチームCTS（Clean Team SOZO）の活動を継承した。

活動は、月に一度の地域巡回と豊橋警察署と連携した駅前のキャンペーン活動が主であったが、学内の自転車の施錠点検や、少年立ち直り支援行事などにも参加した。地域巡回やキャンペーン活動では、最初戸惑っていた学生が、大きな声で声掛けする姿が見られた。活動の中で、行事に参加した他のボランティア団体の方との交流も構種的に図られた。また、CTSの防犯活動に対し、豊橋警察署から感謝状をいただき、学生たちも自分たちの活動に自信を持つことができた。（中島 剛）

細谷ゼミでは、CTSでの活動を広報する目的でCTSホームページを作成しました。

当初は東三河でのイベントを全て盛り込もうと思いましたが、まずは自分たちの活動を知って貰うことから始めることにしました。

授業で習ったことを思い出しながら作成しましたが、いざ作ってみると意外と難しく、ブラウザで出来上がりを確認してみるとイメージと違ったりして悪戦苦闘の末出来上がりました。

プロが作る物には程遠い出来ではありましたが、私たちの活動を知って貰うキッカケになると嬉しく思います。（細谷邦夫）

6 秋葉道・木の駅プロジェクトへの企画・調査協力

担当教員:花岡 幹明　協力:特定非営利活動法人 穂の国森林探偵事務所

本プロジェクトは新城市大野地区で行われている秋葉道・木の駅プロジェクトの企画・調査協力をテーマに1年間活動してきました。この木の駅プロジェクトとは、日本国内の様々な地域で展開されており、放置された森林の整備やこれら地域資源を活用した地元経済の活性化を目的とした事業（社会実験）です。今回、花岡ゼミプロジェクトでは、①新事業等の企画提案、②地域通貨「アキハ券」の利用実験への参加、③プロジェクト発行紙「木の駅ニュース」の記事作成とそのための商店街調査という3つの活動を行いました。新企画については、学生提案のアイデアが採用され11月に地元もゆ小学生を対象とした森林教育の体験事業としてスタートしました。また、地域通貨の利用実験や「お店紹介」記事の取材で地元商店街の方々と様々な交流をしてきました。

7 We ♥ Rose プロジェクト ～バラ生産農家と提携した青いバラの制作と販売～

担当教員:村松 史子　協力:「Watanabe Rose Nursery」渡辺農園

地域産業界連携教育力改革プロジェクトの取り組みは、田原市の花農家と連携して実施しました。花農家の方との顔合わせを行い、常に情報が交換できる体制を学生が考えました。花農家の見学を実施してからメンバーの取り組み方に変化が現れました。

学園祭におけるバラの販売に向け、自ら行動する取組が開始されました。しかし、学園祭を目前にして花農家が台風被害に会ってしまい、毎年作成される「青いバラ」の制作が出来ませんでした。一時は、販売できるかと案じましたが、花農家のご尽力で美しいバラの仕入れができました。利益が得られるように販売価格を設定し、販売利益と学園祭で来場された方から頂いた義捐金を加え、連携先のバラ農家に贈りプロジェクトを締めくくりました。

豊橋創造大学
情報ビジネス学部／経営学部

プロジェクト活動

1 PB競争時代における地域スーパーの生き残り戦略

担当教員:石田 宏之
協力:㈱サンヨネ・豊橋農協及び高橋農園

1990年代後半スーパーから始まったPB競争は、2000年に入りコンビニにも普及し、さらに流通業以外のあらゆる業界に浸透し始め、PB競争時代の到来を迎へ、21世紀に入りすでに10数年が経過している。当ゼミでは、地域スーパーに着目し、東三河地域のスーパー(バロー、クックマート、サンヨネ)およびその競合相手であるコンビニ(セブンイレブン、ローソン、ファミリーマート、サークルKサンクス、ミニストップ)各店舗そしてPB商品を生産しているメーカーならびに農家、農協を対象にNB商品とPB商品およびその戦略に関しての調査を行った。

その結果、スーパー、コンビニによるPB競争時代の中で、東三河を中心にした地域スーパーの生き残りには、3つのパターンが存在することが判明した。その第1が中部圏を中心にさらに店舗拡大を図り、CGSグループのような共同開発・共同仕入れ開発型を目指す中堅スーパー(ロー型、第2が地域密着型で、今後は、バロー方式の規模拡大を目指すか、大手スーパー・コンビニに吸収されるかのクックマート型、第3が地域拡大や店舗拡大ではなく、「食の安全と食の楽しさを大切にする」ことをコンセプトにした地域密着型のサンヨネ型の3パターンである。

サンヨネが提供するハートマーク商品のコンセプトには、①「食で地域に恩返しする」、②「おいしい物、安心な物をできる限り提供していき、明るい家庭を作ってください」というメッセージを発信する、③「規模拡大よりも、地域密着型スーパーを目指す」ことを上げ、それを実現することが地域密着型スーパーの生き残り戦略である。

2 携帯端末向けアプリ作成

担当教員:今井 正文
協力:株式会社SRA名古屋事業所・株式会社アイエスエル・小坂井高校

経営学部では全学年にiPadが無償貸与され、無線LAN環境を通して大学内どこからでもネットを利用することができる。電子教材配布だけでなく、レポート作成のための情報収集やゼミナールでのプレゼンテーション作成、就職活動などに利用されている。

本プロジェクトでは、本学の学生の携帯端末の活用を考え、アプリ制作やLMSの構築をテーマとした。アプリ作成を通じて開発技術を学ぶとともにLMSの構築を中心に学習ツールとしての効率的な活用を考える事を目標として活動した。

アプリ制作にあたっては本学の学生の利便性の改善を中心とし、まず、本学のバス利用者向けに時刻表アプリを制作した。また、並行して端末活用の観点から、eラーニングの実施に必要な学習管理システム(LMS)の一つであるMoodleを用いて小テストシステムを作成し、iPadとの連携について検証を行った。アプリの制作方法や開発環境については、株式会社SRA名古屋事業所様からは学校教学システムの概要と開発環境等を、株式会社アイエスエル様からはHTML, JavaScript, jQueryMobile等によるWebアプリ開発環境等について助言頂いた。実際は、クラウド上にありブラウザで動作するMonacaを開発環境として使用した。併せて、授業内でのiPad活用についての協力要請が小坂井高校様からあり、今回は、体育における各グループのiPadによるビデオ撮影とそれらの無線LAN環境経由での教員PCへの提出システムの構築を行った。

アプリ制作やシステム構築を行う事を通して、チームによる活動の基礎を学び、各自の性格的な特性や技術的に不足する点等を自覚、内省できたと考えている。

3 SOZOショップコラボプロジェクト 実社会の組織や企業とコラボしてイベントを果敢に実施

担当教員:川戸 和英
協力:NPO団体「パルク」・ほの国百貨店・松山小学校

2013年4月26日、豊橋市広小路1丁目に開店した「SOZOショップ笑輪」の店舗運営をしながら、地元の企業や団体とコラボする活動を展開してきた。

専門ゼミナールでマーケティングの基礎理論を学びながら、毎週金、土、日の店舗運営を続ける傍ら、コラボ事業として、豊橋市松山小学校の夏休みタ涼み大会でのドリンクとお菓子販売、ほの国百貨店の「親子ふれあい広場」におけるゲーム、ビンゴ大会のイベントを開催した。併せて、企業見学として、中部国際空港株式会社のマーケティング戦略のレクチャーも受けた。

本プロジェクトの成果の第1は、毎週末のショップ運営と、小学校百貨店とのコラボによる実業界の実体験ができたことであり、机上のプランと実際とのギャップや、実践では予期できなかった事態が発生し、それに対して臨機応変な対応が求められることを、身をもって体験したことである。

第2は、プロジェクトおよび実業界の実際の業務がチームワークで行われないと、成功はおろか、業務そのものが停滞することを、実践を通じて学んだことである。その際、他のメンバーに迷惑をかけないこと、消極的なメンバーを攻撃しないでプロジェクトに巻き込むこと、などを、実体験で理解できた。

ただし課題としては、自発的にプロジェクトに参加する姿勢を全体としてもっと強くすることである。これらのプロジェクトが自分の仕事であるとの認識が強まると、これらの課題をもっと強く実践できることになり、それは将来の就職にも生きてくるはずである。

4 豊橋エコタウンプロジェクト ～豊橋市内小中学校に設置された太陽光発電システムの状況調査～

担当教員:見目 喜重
協力:豊橋教育委員会教育政策課・豊橋市内各小中学校の校務主任

近年の太陽光発電システムの急速な普及に伴い、太陽光発電システムの故障や発電性能の劣化などの長期信頼性に関する問題が指摘されている。本プロジェクトでは、太陽光発電の長期信頼性に関する基礎的なデータの収集・分析、エネルギー・環境問題への意識を高める環境教育コンテンツの開発を目的として、平成23年度より継続して豊橋市内小中学校に設置された太陽光発電システムの稼働状況および環境教育への取り組みに関する調査を行っている。

調査に当たっては、学生が事前に小中学校の担当者と日程調整を行った。その後の訪問時に、システムの設置場所、障害物の有無、発電量など稼働状況を確認するとともに、運転トラブルならびに環境教育への活用状況などの聞き取りを行った。

本年度は73校の調査を行うとともに、過去3年間のシステムのトラブル状況を発電量への影響から3段階にレベル分けしてまとめた。その結果、本年度は9件のトラブルを確認し、その中には発電停止などシステムの運転への影響が極めて高いものが7件あった。また、昨年生じたトラブルが改善されていないものも2件あった。

また、吉田方および豊城中学校を対象にして、太陽光発電システムの性能劣化評価を変換効率の推移から試みた。これまでに得られた結果の分析から、吉田方中学校のシステムについては変換効率の若干の低下が見られた。ただし、その低下の度合いは太陽電池メーカーの性能保証範囲内であり、大きな問題とはならないと思われる。今後、より詳細に定量的な分析を試みる予定である。

5 アカウミガメの保護活動

担当教員:中野 聡
協力:豊橋市役所環境部環境保全課

環境問題は、現代経済の基本課題のひとつである。2013年度には、東日本大震災と原発事故の経験の風化が早くも始まった感があるが、C.ロイドの「137億年の物語」のように生物多様性を訴える著作も社会的関心を集めた。

今年度は、豊橋市役所環境部の兵藤氏と田中氏などの御支援を頂きながら、アカウミガメの保護活動について学び、少しだけ実践した。表浜海岸が、日本有数のアカウミガメの上陸・産卵地であり、自治体やNPOの保護活動を伝え聞いたこと、そして、サーフィンなどを通して表浜の海に日頃から親しんでいる学生がいたことが背景にある。

活動では、①ウミガメの生態と環境問題の学習、②豊橋市が主催するセミナーや夜間調査への参加、③保護啓発活動のための資料(リーフレットや報告書、ムービー)の作成、④社会的働きかけを目標に掲げた。その達成率は、学生の評価によると60%だが、100kgもあるアカウミガメが表浜の海岸をゆったりと闊歩する姿を見るのは、全員、初めてだった。NPOの人々の活動に接したこと、リーフレットの高校や公共機関への配布、自主ムービー作成の試み、そして学生の自主的な取り組みが印象に残った。

他方で、PBLの目的と方法は再考の余地があると思う。それは、プレゼンテーション・コンテストではない。学習の本来の目的は、学習者が関心のある組織や社会のテーマについて深く学び、根拠に基づいて考え、眼前の、または長期的な課題に対処しうる合理的判断力の育成にあるのだと思う。来年度のプロジェクトに期待するところ大である。

6 高校生と学ぶ会計学☆彡

担当教員:野口 倫央
協力:藤ノ花女子高校・犬山高校(商業科)

現代の企業人は、英語・パソコン・会計を具備しなければならないと言われて久しい。英語・パソコンに関しては、義務教育の中において学習する機会がある。しかしながら、会計学に関して学習する機会は乏しいのが現状である。

そこで、高校生に会計学の学習の場を提供し、その重要性を理解してもらおうと考えたのが、このプロジェクトを始めたきっかけである。それを具体化するため、高校生に興味のあるディズニーに焦点を当て、ディズニーの財務分析を行い、その結果の報告を通じて、会計学に関する情報を発信し、高校教育に欠けている会計学に興味を抱き、その重要性に気付いてもらうことを目的として活動を行った。

この目的を達成するために、野口プロジェクトでは、会計学の基礎知識および財務分析の基礎知識を学習し、プロジェクトメンバーがそれらの知識を修得した上で、ディズニーについて様々な財務分析を行った。この成果を発揮すべく、野口プロジェクトでは、10月には藤ノ花女子高校で「ディズニーの企業経営を見てみよう　―会計学の視点から―」というテーマでプレゼンを約400人の生徒の前で行った。さらに、12月には、犬山高校で「ディズニーの財務分析をしてみよう」というテーマでプレゼンを行った。

両校でアンケート調査を行った結果、概ね7割近くの生徒が、会計学に興味を持ち、かつ将来における会計学の知識の必要性を理解してくれた。

7 トヨハシ♡(ハート)ヨシプロジェクト

担当教員:三好 哲也
協力:豊橋観光コンベンション協会・豊橋市(企画部政策企画課・産業部観光振興課)・豊橋鉄道
穂の国とよはし芸術劇場PLAT・豊橋生菓子組合事業委員会

豊橋市は、産業、観光、文化などを広く伝える様々なプロモーション活動に取り組んでいる。本プロジェクトにおいて、学生の目線でできるシティープロモーションとして、豊橋にある自慢できる施設やグルメ紹介に取り組んだ。「こどちよい街」をキーワードにしてテーマを「トヨハシ♡(ハート)ヨシプロジェクト」とした。プロジェクト活動を具体化するにあたって、「地産地消グルメ開発チーム」と「ゆるキャラプロモーションチーム」に分けて展開した。

地産地消グルメ開発チームは、豊橋生菓子組合の協力を得て若者に認知されていない豊橋スイーツの紹介を「豊橋ボーイズ&ガールズコレクションマップ作成」というサブテーマにして実施した。豊橋生菓子組合へ企画提案し組合協力の下、和菓子、洋菓子、歴史文化関連菓子などのスイーツコレクションの調査および試食会を実施した。特長あるスイーツをマップにまとめることにより、若者への豊橋スイーツについての認識を深める活動に尽力した。

ゆるキャラプロモーションチームは、豊橋のキャラクターであるトヨッキーを同伴して豊橋の誇れる施設を取材し、それをYouTubeでビデオ紹介した。全国的にも希少な路面電車およびそのサマー子供企画、豊川で開催されたB1グランプリ、最近オープンしたばかりの豊橋芸術劇場PLATの取材を行いビデオ作成した。作成したビデオは、YouTube(http://www.youtube.com/channel/UCxw05emVLHyT6CzXFfiGbzA) へ動画を公開した。

8 We ♡ NONHOI ～のんほいパーク盛り上げ隊～

担当教員:三輪 多恵子・山口 満
協力:豊橋総合動植物公園(愛称:のんほいパーク)・公益財団法人豊橋みどりの協会
豊橋市役所企画部シティプロモーション推進室・NPO法人クライフ

本プロジェクトは、豊橋総合動植物公園(通称:のんほいパーク)について様々な情報発信を行い、活性化に結びつけることを目的とした活動を行った。連携先として、主に、のんほいパーク、豊橋みどりの協会にご協力を頂いた。

昨年度はWebサイトの作成を主体として活動を行ったが、閲覧者数を増加される手段について課題が残されていた。この反省を踏まえ、本年度はFacebook、Twitter、YouTubeといったSNS(social networking service)を活用した情報拡散を試みた。SNSを利用した継続的な情報発信、閲覧者の立場に立った情報選択や表現方法の工夫、閲覧者をSNSへ誘導するための取り組み、等を通して学生自身が考え、行動に移す場面が多く見られ、課題発見力、主体性、実行力、等の面で成長を感じることができた。また、紙媒体の活用も積極的に取り入れた。三角柱POPやポスター・リーフレットの作成、フリーマガジンへの記事の掲載、等の授業では意識することの少ない「何かを伝える」ための紙面作りを経験したことで、学生が自身のスキルを見直すよい機会になったと感じている。

2年目の取り組みということでパークの方々との距離が縮まり、プレス発表資料や写真の提供を受けたり、本学の学園祭におけるアンケート実施を提案したりと、とても良い協力関係を築くことができた。この場をお借りして心から感謝を申し上げたい。

文部科学省 大学教育改革推進事業

産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業

平成25年度『キャリア形成』活動報告

産業界ニーズの把握と学生の就業観育成

事業推進責任者／経営学部長　佐藤 勝尚

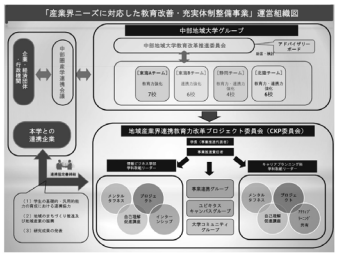
「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」は、三重大学を代表校とした中部圏23大学による「アクティブラーニングを通した教育力」および「地域・産業界との連携力」を通して、教育改革力を強化する取組である。本学情報ビジネス学部／経営学部は、東海Aチームに属して幹事校と副幹事校からなる中部地域大学教育改革推進委員会の調整のもと、連携FDを通して教育改革の実践過程で生まれる成功と失敗を共有しつつ教育力を高め、中部圏産学連携会議を通して大学が育成しようとする資質と地域・産業界のニーズに関する対話を行うものである。また、その地域・産業界のニーズに対応した能力を育成するため、学生参加型授業、共同学習、課題解決学習やPBLなどを教育現場に取り入れ、就業力に関わる学生の能動性を高める改革を進めるとともに社会現場での実践教育としてのインターンシップを高度化するものである。

現在、大学における人材育成と産業界のニーズとのギャップについて、最も指摘される点の1つは「学生の主体性・創造性の欠如」である。これは、企業入社後において、与えられた仕事しか出来ない、仕事上の問題点を自ら発見し、目的を設定し、仮説を立て、創造的に解決していくという社会人として必要な姿勢が欠如している状態である。この問題は学生の能力が欠如しているのではなく、彼らがこれまでの人生経験において目的を持って主体性と創造性を発揮する機会が十分に備わっていなかったことにあると考えられる。大学全入時代において各大学の学生サポートが非常に手厚くなる中、学生が「自らの力」で主体的に活動する機会や、創造的に物事を解決する経験が減少していることが原因として推測される。この問題に対応するため、本学では「大学生の就業力育成支援事業」として、これまで情報ビジネス学部／経営学部が取り組んできた「持続型職業人SOZOプロジェクト事業」を発展させ、以下の4事業を柱とした事業展開を進め、学生の総合的な「就業力」の育成を図るものである。

今回の「キャリア形成活動報告」では、本事業のうち産業界ニーズの把握と学生の就業観の育成を目的として実施している正課科目「キャリア形成」の講義をダイジェストして報告する。「キャリア形成」は、本学の卒業生を含むさまざまな分野で働く先輩たちを教室にお招きし、仕事の楽しさや難しさ、就職時の思いなどを語っていただく講義形式の授業であり、今回の活動報告では、平成25年度に実施したゲスト講師8名の講義内容について報告する。

『地域産業界連携教育力改革プロジェクト』
①メンタルタフネス講座の正規科目化への取り組み
②自己理解促進のための採用面接官の疑似体験（バーチャル人事体験）
③地域企業・組織と連携した プロジェクト体験
④学生、連携大学、地元企業を含めた3者間の協働によるインターンシップ実施

「産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」運営組織図



文部科学省 大学教育改革推進事業 **産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業**

文部科学省の平成24年度新規事業「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」（本事業は、産業界のニーズに対応した人材育成の取組を行う大学・短期大学が地域ごとに共同して地元の企業、経済団体、地域の団体や自治体等と産学協働のための連携会議を形成して取組を実施することにより、社会的・職業的に自立し、産業界のニーズに対応した人材の育成に向けた取組の充実が図られるよう、国として財政支援を行うことにより、幅広い職業人育成に比重を置く大学の機能別分化に資することを目的としています。）において、豊橋創造大学及び豊橋創造短期大学部をはじめ中部圏の23大学が連携し取組む「中部圏の地域・産業界との連携を通した教育改革力の強化」が選定されました。

大学グループと地域・産業界との連携の趣旨

中部圏23大学（短期大学を含む：以下「中部地域大学グループ」と呼ぶ）は、これまで各大学独自で学生の社会的・職業的自立を目指して、入学から卒業までの期を通した全学的かつ体系的な指導を行う体制整備を進めるとともに、教育の質保証を目指して教育理念に基づく学士力の検討を進めてきました。この過程で、大学個々で、キャリアガイダンスが整備され、教育改革を本格的に進める舞台が整ってきました。一方で、従来の教育改革の議論が、大学内における教職員間にとどまっているために、「育成すべき資質」が、真に地域・産業界のニーズに応えたものであるかに関して、大学側が十分な確信を得ている状況ではありませんでした。

そこで、中部地域大学グループは、上記の共通認識のもとに、相互に連携しつつ、地域・産業界と積極的に対話を進めることを通して、大学の教育理念を尊重しつつ、地域・産業界が学生に求める資質として提示している「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」に合致する人材を送り出すための現実的な教育改革力の強化を図ることを目標に定め連携することにいたしました。

大学グループの構成

中部地域大学グループは、大学が教育改革のチャレンジを行う過程で行う失敗をも財産であるとみなし、中部圏の地域・産業界のもつ質を追求する姿勢を、教育現場に適用するために、積極的な対話や連携をすすめていく。各大学が、地域に根差しつつ「チームで働く力」を発揮するためには、より小さな単位による相互作用が機能的です。これらのチームは、地域に根差した連携FDの企画単位であり、成果や失敗を共有する単位となるが、取組自体は、中部地域大学グループが一体となって実施するものです。

東海Aチーム	東海Bチーム	静岡チーム	北陸チーム
アクティブラーニングを活用した教育力強化と検証を行う。	地域・産業界との連携力強化と検証を行う。	静岡県を舞台として教育力・連携力の強化を図る。	北陸地方を舞台として教育力・連携力の強化を図る。
●名古屋商科大学 ●三重大学 ●愛知産業大学 ●椙山女学園大学 ●中部大学 ●豊橋創造大学 ●豊橋創造大学短期大学部	●名古屋産業大学 ●岐阜大学 ●同朋大学 ●日本福祉大学 ●名城大学 ●愛知大学短期大学部	●静岡大学 ●静岡理工科大学 ●静岡英和学院大学短期大学部 ●東海大学短期大学部	●金城大学短期大学部 ●金沢大学 ●福井大学 ●富山県立大学 ●富山国際大学 ●金沢工業大学

※大学グループの幹事校は三重大学、下線はチームを代表する副幹事校

SOZO 豊橋創造大学

●経営学部 経営学科
〒440-8511 愛知県豊橋市牛川町松下20-1 教学部教務課
TEL 050-2017-2102(直通)　FAX 0532-55-0803
インターネット［URL］http://www.sozo.ac.jp/

1年次開講科目『キャリア形成[1]』のねらい

担当教員／経営学部 准教授　加藤 尚子

1年次開講科目「キャリア形成」は、様々なキャリアを知ることで、学生1人ひとりの選択肢の幅、物の見方が更新されることを目的として運営されている。ここでは、さまざまなキャリアを歩んできている人材と接する機会として外部講師による講演を提供し、彼らがどのようなキャリアを歩んできているのか、キャリア発達という軸のもと、提示している。

外部講師による講演前にはキャリアとは何か、キャリア発達に関する授業を受けるとともに、学部長によるキャリアに関する講義を受ける。また外部講師と学生が名刺を交換するために名刺を作成する回も設けられている（それぞれの名刺には学生自身のキャッチコピーを入れることが求められている）。

外部講師の依頼にあたっては、学生にとって身近な存在と感じることが可能な年代とし、基本的には20歳代から30歳代とした。実は、外部講師をお願いするにあたり、譲れなかった点が一つだけある。それは仕事について語るときに、目がきらきらしている人を選ぶという点であった。働くことで何を得、何を学びとるのか、また働くということは日々何が起きているのか、この点について学生たちに生の声を届けてもらうことが本科目の目的であると同時に、学生にとって「モデル」となりうる存在であることが本科目にとって重要な点としたからであった。

学生にとってモデルとなる人材に接する機会を提供すること、学生らが選択肢の幅や物の見方を更新していくこと、本科目の目的はここにある。この科目設置の目的はキャリア発達について自ら考える機会を持つことにあると同時にBandura（1971,1977）の観察学習の考え方に基礎を置く。また学生全員にこの機会を提供するため、必修科目という形を取っている。

学生時代は予期的社会化の段階にあたる。本学では、仕事そのものに接する機会はいくつか存在する。しかしながら、学生らにとって「モデル」となりうる存在を中心に置いた授業は経営ビジネス講座（旧総合講座）[2]以外、設置されていなかった。彼らにとってのモデルとなりうる人材に接する機会は身近に存在するのだろうか。それほど多くはないのではないだろうか。この科目を立ち上げたきっかけはこの疑問から始まったのであった。

参考文献
Bandura,A.［1971］*Psycological Modeling*：Conflicting Theories,Aldine-Atheton.（原野広太郎・福島修美訳［1975］「モデリングの心理学―観察学習習の理論と方法」金子書房）
Bandura,A.［1977］Social Learning Theory, Prentice-Hall.（原野広太郎監訳［1979］「社会的学習理論―人間理解と教育の基礎」金子書房）

[1] 本科目は外部講師の方々のご尽力により実現できております。この場をお借りして、感謝申し上げます。
[2] 経営ビジネス講座とは、経営に携わる方々から直接お話を聞く機会を持ち、企業経営や業界の諸問題について理解を深め、生きた経営を学ぶ授業であり、二年次に設置されている。

『キャリア形成』を振り返って

担当教員／経営学部 准教授　山口 満

平成18年度より豊橋創造大学情報ビジネス学部の講義としてスタートした「キャリア形成」は、今年度で8年目を迎えることとなった。この間、様々な業界で活躍されている社会人の方々（主に20代～30代の若手を中心）に講師としてご協力いただいた。平成25年度は計10名・8組の講師をお迎えすることができ、これまでご講演いただいた講師の人数はのべ75名となった。ご多忙のところ貴重な時間を割いて本学の学生のためにご準備・ご講演くださった皆様には、あらためて心より感謝申し上げる次第である。

本講義の大きな目的は、「社会で活躍する人生の先輩たち（本学の卒業生を含む）」の多様なキャリアに触れ、その中から学生自身が自分のキャリアを組み立てるためのヒントを見つけ出すことにある。教員が講師の方々に講演を依頼する際には、これまで歩んだ自身の人生を振り返っていただきながら、学生と社会人を比べたときのギャップや、現役の大学生に対して伝えたいことを自由にお話しいただくようにお願いしている。

講師の方々の仕事は多種多様であり、講演内容や講演方法も様々であった。しかし、講師から発せられたメッセージの大部分は図らずとも共通しており、およそ次のこと―人間関係（出会い、ネットワーク）、コミュニケーション能力、態度・姿勢、自己理解、専門知識―が重要であることに言及されていた。講師の方々に仕事の実情や本音をざっくばらんに語っていただくことで、大学教員の立場からは伝えることが難しい社会で働く人の「リアル」を学生に届けられたと考えている。

さて、この講義をより実りあるものにするためには、講演者による一方的なメッセージ伝達の講義で終わるのではなく、講演を聴講した結果として学生自身がそれをどのように受け止め、何を感じたのか・気付いたのか、をまとめることが重要である。本科目では、講演毎に感想レポートを作成するよう学生に課題を与え、意見形成と表出を促した。これは、「社会人基礎力」における傾聴力（相手の意見を丁寧に聴く力）・柔軟性（意見の違いや立場の違いを理解する力）、さらには発信力（自分の意見をわかりやすく伝える力）の育成も目的としている。学生から提出された感想レポートについて、部分的に抜粋して本紙面で紹介させていただいた。感想レポートの内容から、大部分の学生において自分なりの「気づき」があり、自分の意見や感想として発信できていることを確認できた。

高校を卒業して日の浅い大学一年生を対象とした講演であり、卒業後の職業人生をイメージしづらい学生もいたようであるが、本科目を通じて受け取った講師のメッセージを忘れることなく、残りの学生生活を有意義に過ごされることを願っている。

豊橋創造大学 経営学部　平成25年度 キャリア形成講演

●「キャリア形成」とは
本学の卒業生を含む、さまざまな分野で働く先輩たちを教室にお招きし、仕事の楽しさや難しさ、就職時の思いなどを語っていただく講演形式の授業です。先輩たちの多様なキャリアに触れ、自分のキャリアを組み立てるための生きたヒントにしてもらおうとスタートしました。

1 広告代理店の仕事

講師：菅沼 真 氏［卒業生］／株式会社イマージュ広告

平成25年度第1回目は、本学の卒業生（経営情報学部第1期生）である菅沼真氏にご講演いただきました。菅沼氏は、印刷会社勤務を経て、現在は広告代理店の営業のお仕事をされています。

講演では、はじめに、豊橋創造大学での学生時代の過ごし方、また、就職活動を振り返ってお話しいただきました。次いで、印刷会社や広告代理店において経験された営業という仕事について、具体的なエピソードを交えながら分かりやすくご紹介いただきました。講演の中では、人生の転機となった転職について、どのような考えの下でどのような行動をされたのかをお話いただきました。後半は、仕事のやりがいや仕事の楽しさ・仕事の難しさ、など、働くことをイメージしづらい大学1年生向けに易しくご講演いただきました。

講演の最後には、「今から意識してほしいこと」として、「コミュニケーション力は重要。まずは挨拶や会釈など出来ることを日頃からしっかりと」「失敗は信頼アップのチャンスである」等、学生に向けて貴重なメッセージを送っていただきました。講演後には、多くの学生と名刺の交換をしていただきました。

学生のレポート

●社会人になって仕事を続けていくには、モチベーションの向上や、仕事にやりがいをみつけていくことが大切だと思った。自分の仕事にオリジナリティを持たせたり、顧客とコミュニケーションをとっていく中で喜びの声をもらったり、仕事を達成した時の満足感を得ることが大事だと分かった。

●仕事を選ぶとき、自分とあっている仕事を選ぶのも大切だが、まず、人間関係が重要であるとお話しされていて、人間関係はどこでも大切なものだと感じた。人とコミュニケーションをとったりするのが少し苦手なので、大学生活をしている間に少しずつ改善していこうと考えている。

2 保険代理店の仕事

講師：野島 啓 氏［卒業生］／野島保険事務所

外部講師による第2回目の授業として、10月18日に野島保険事務所代表の野島啓（あきら）氏による講演が行われました。本学第二期生にあたる野島氏は大学時代から「誰にも負けたくない」という想いが強く、いつか起業しようと心に決めていたそうです。

野島氏は数社の会社経験と公務員としての仕事経験を積んだ後、現在の会社を立ち上げました。講演ではこれまでの仕事についてその経験をお話しくださるとともに、保険代理店の仕事について具体的にお話しくださいました。

そして、これまでのキャリアを踏まえ、どのような場面においても、必ずそこには目的があり、目的を達成するための目標があったとのこと、学生に目的を持って行動することの大切さ、そして目標と目的をしっかり持ち、3年後（卒業時）、5年後の自分を頭に描くことの大切さを語っていただきました。

毎回、外部講師による授業が終わった後、何人かの学生たちは学生自身のキャッチコピーが書かれた名刺を持って外部講師のところに挨拶へと向かいます。後日、野島氏は学生から手渡された名刺にコメントを書いて渡してくださいました。

学生のレポート

●今回の講演を聞いて自分の目的と目標を明確にしなければならないということを学んだ。自分が何をやりたいか、何になりたいか、そのために何をして、何をすればよいのかを明確に決める必要があると思った。仕事をうまくやっていくには、仲間とコミュニケーションをしっかりとり、自分を信頼してもれえるように、仲良くなることも必要だと感じた。

●自分のできる範囲での目標を継続的に立て、達成し続けたいと思った。自分の立てた目標を達成し続けることで、それが自分の生活のリズムになり、目標を達成し続けることが癖になっていったらいいなと思った。

3 飲食業界の仕事

講師：河合 沙奈美 氏［卒業生］／株式会社物語コーポレーション

河合沙奈美氏は、本学の卒業生（経営情報学部第1期生）であり、株式会社物語コーポレーション人財開発部にて人事関係のお仕事をされています。

河合氏からは、はじめに、昨今のフードビジネス業界の動向について、他業界との比較や具体的な数値データを用いながら、様々なことをご説明いただきました。次いで、物語コーポレーションにおける業務内容、部門や教育制度、特徴的な取り組み（活動）等々についてビデオやパンフレットを交えながらご紹介いただきました。経営学を学び始めた一年生にとって、一企業の経営理念や取組内容、社内の様子を詳細かつ具体的に知ることができたのは、大変有益であったようです。

さらに講演中には、学生同士がペアを組み、自己紹介・他己紹介のワークに取り組みました。ワークを通して、河合氏からはジョハリの窓をご紹介いただくとともに、自己開示の重要性について人事・採用担当の視点からご教授いただきました。講演者から学生にメッセージを送る通常の講義形式と異なり、学生同士でワークを行った本講演は、学生にとって強く印象に残る回となりました。

学生のレポート

●会社は物語でできている、そのキャッチコピーはこの会社にとってもピッタリだと思いました。ひとりの個性では無理でも、ひとり一人の個性が会社という名の物語をつくっていく（というのはとてもすてきだと思います。私も将来、自分の個性をシッカリと瞳することなく出せるようになりたいです。

●今回の講演では二人一組になりお互いに自己紹介をしあったことが印象的でした。自分のことすべて知っているつもりでも他人からしか見えてこない自分というものが存在するということを知ることができました。

4 広告業界の仕事

講師：齋藤 純 氏［卒業生］／プライムナンバーズ株式会社

外部講師による第4回目の授業として、11月8日にプライムナンバーズ株式会社執行役員の齋藤純氏による講演が行われました。齋藤氏は大学卒業後、株式会社トランスコスモスでの営業、広告プランナーとしての経験を経て、株式会社サイバードに転職、2013年夏にはプライムナンバーズ株式会社の執行役員に就任しました。

プライムナンバーズ株式会社は2012年に設立されたネット広告コンサルティングを中心に展開している会社で、新しい価値の創造にも挑戦しているとのこと、講演していただいた段階では、12月にスマートフォン向けのサービスの立ち上げができるよう、準備をしていることを学生にお話しくださいました（現在、各種サービスを並行して作業しているため、スマートフォン向けサービスは2月末にリリース予定となりました。楽しみにしてくださっている学生の皆様にお詫び申し上げますとのことでした）。

講演時には齋藤氏のこれまでのキャリアについて大学生活から就職活動、これまでの仕事経験等詳しく語っていただきました。そして学生へのメッセージとして、志を持つこと、意思表示をすること、決断経験値を増やすこと、成果にこだわること、ダメ出ししてくれる先輩を持つことの大切さを語ってくださいました。

学生のレポート

●スマートフォンの中にはアプリケーションがたくさんあり、無料で使えるものから有料のものまで様々あるが、無料のアプリケーションを作る会社はどうやって儲けているのかは、疑問であり、興味深いことだと思った。

●「自分に将来に対して軸を持つ」という内容が印象深かった。（中略）。今の自分の「将来に対しての軸」はまだ決まっていないのだが将来これが必要になるのだと思い、よく考える必要があると思うことができた。

●今回の話を聞いて、これから「行動→結果→分析」の流れを意識して物事に取り組もうと思った。

5 金融業界の仕事

講師：青山 貴映／豊川信用金庫

外部講師による第5回目の授業として、豊川信用金庫に勤務されている青山貴映氏をお招きしてご講演いただきました。

青山氏からは、豊川信用金庫の概要についてご紹介いただいたのち、銀行と信用金庫の違いといった基本的な事柄についてわかりやすくご説明いただきました。次に、信用金庫に就職するまでのフロー、総合職と専門職の職務の違い、信用金庫における具体的な業務内容等についても易しく教えていただきました。さらに、金融業界で働くためには専門知識の習得が必要であること、入庫後にはいくつかの試験を受験しなければならないこと、金融業界に向いている人、等、ご自身の経験談も交えながらご説明いただきました。講演において青山氏は、特に「プロ意識を持って仕事に臨むこと」「向上心と自発性が重要である」ということを強調されました。

講演の最後には、学生へのメッセージとして「学生のうちは考える時間がある。自分は何をしたいのか、何に向いているのかを、しっかり意識して考えてほしい」とお話しいただきました。金融業界を志望する学生のみならず、青山氏からの言葉は多くの学生に届いたようです。

学生のレポート

●青山さんは、金融企業だけでなく、仕事を選ぶ際に「自分は何になりたいのか」「どんな仕事について、どう生きていくのか」「自分の性格を理解すること」、これらが必要だと話していた。今までは1年生だからまだ早いと思っていたが、今から就職のことを考え始めても早すぎることはないのではないかと思った。

●これからの大学生活で自分の成りたい職業、向いている職業を見つけ、専門的な知識を身に着け、人生をどのように生きていくかなどの人生設計を立て、自分の性格を知り得ていくことが重要だと感じた。

6 人材派遣・研修の仕事

講師：井澤 友行 氏［卒業生］／株式会社センチュリーアドカンパニー

外部講師による第6回目の授業として、11月22日に高島屋グループ株式会社センチュリーアンドカンパニーの井澤友行氏による講演が行われました。井澤氏は本学一期生にあたります。

井澤氏は出会いを大切にして考え抜くこと、出会いから何を学ぶのか、仕事を選ぶ準備をしておくことの大切さについて話してくださいました。

入学式で初代学長である佐藤芳雄教授が学生たちに語りかけた式辞の中の言葉「ここがロードス島だ、ここで跳べ」。これはイソップ寓話の話に出てくる言葉で、今いる場所で努力できない者はどこへ行ってもできない、ここで努力することが大切であることを意味しているそうです。井澤氏はこの言葉があったから様々な困難を乗り越えることができたといいます。

また、井澤氏は大学で出会った恩師関本昌秀教授との対話を通じて自分の人生について考え抜いていきます。井澤氏の疑問に時にはこの本を読んでみるとよいと書籍を手渡す関本教授。自分は何ができるのだろうかを考え抜いた井澤氏は現在、若者の潜在能力を開花したいという思いを実現し、キャリアカウンセラーとしてがんばっています。

学生のレポート

●出会いをどう活かすかが、「自分の運命を左右する」と聞いて、心を打たれた。今まで出会った人、大学で出会った人、これから出会う人、その出会いを大切にしようと思った。そして、これから何事も楽しく思えるようにしようと思った。思えるようにするのも自分、思えなくするのも自分次第。自分が行動を起こし、何事も楽しく終わらせることができるようにしようと思った。

●「ここがロードス島だ。ここで飛べ」の精神について、とても大切であることだと感じたと同時に、感動した。この意味は「自分の選んだものが最も良いものだと考えるということ」である。（中略）。心の持ち方次第で生活や精神などが大きく変わるのだと感じた。

7 IT業界の仕事

講師：原田 大也 氏［卒業生］・成田 慎平 氏／富士電機ITソリューション株式会社

外部講師による第7回目の授業は、富士電機ITソリューション株式会社の原田大也氏（本学経営情報学部卒業生、SE職）と成田慎平氏（営業職）のお二人による講演となりました。

お二人からは、はじめに、IT企業である同社の会社概要や、同社で働く方々の職種ならびに業務内容についてご紹介いただきました。次に、学生時代から就職活動を経て今日に至るまでのエピソードについてそれぞれ語っていただきました。数々のご経験の中から、学生に対して「視野を広く、好奇心を大切に」「目標・目的を持つ」「一人で悩まずに相談する勇気を」「失敗を恐れずに何事にもチャレンジ」などの具体的なアドバイスを送っていただきました。

お二人は現在、営業およびSEとしてIT業界に関わりご活躍されていますが、本学の学生と同じように、学生時代は経営・経済系の大学・学部で学んでいらっしゃいました。経営系学部生の進路として繰遠いと思われるIT業界で仕事が出来ることをお示しいただいたことは、その業界に関心を寄せる経営学部生をはじめ多くの学生にとって、大変意味のあるものとなりました。

学生のレポート

●実際のITは「縁の下の力持ちである、パソコンにも向き合うが、人と接するところも多い仕事」と聞いて、驚いた。人と接することが少ないと考えていたので、IT業界への印象もかなり変わった。

●今まで、自分ができないもの、苦手なものを避けていたけど、今回の講演を聞いて、自分ができないからやらないのではなく、やらないからできないのだと思いました。まだ就職のことは考えていないけど、できないから、苦手だからやめようという考えはやめようと思いました。知らないこともやっていけば、できるようになるし、楽しくなると思うので、何事にもチャレンジしていこうと思いました。

8 住宅営業の仕事

講師：小木曽 弘規 氏・成瀬 維一郎 氏／トヨタホーム名古屋株式会社

外部講師による第8回目の授業として、12月13日にトヨタホーム名古屋株式会社の成瀬維一郎氏と小木曽弘規氏による講演が行われました。

住宅営業について、お二人の経験談を交えながら、その良さと大変さ、おもしろさについてお話しいただきました。そして、仕事をしていく上で大切にしている二つの点を掲げ、是非この学生という時期にこの二つの力をつけていくことの重要さを語っていただきました。

お二人が仕事をしていく上で大切にしている二つの点とは、コミュニケーションと「常に考える」ということでした。ここでいうところのコミュニケーションとは心配り、気遣いであり、人間関係を築くための源になり、この力をつけるには何をすべきかをお話しくださいました。また「常に考える」ことで何がおきるのか、具体的な事例をもとにわかりやすくお二人の思いを伝えていただきました。

なお、今回の講演にはトヨタホーム名古屋株式会社 総務・人材グループ主任の藤井孝行様も同席してくださいました。ありがとうございました。

学生のレポート

●今回講演をきいて、身につけるべき力とは、「コミュニケーション力」「考える力」「感動力」ということがわかった。私は、この三つの力を身につけるために、多くの人と話し、ざまざまな物事を常に考え、感動したり、人を感動させられるようにし、いろんな経験をし、魅力になる自分になれるように頑張っていきたいと思う。

●いい仕事をしていても人間関係を築くことができなかったら、仕事も続かないと思う。しかも、（コミュニケーション能力は）今社会で求められる能力でもあり、今後はコミュニケーション能力をどれだけ活用できるかが重要だと思う。

8

行事実績一覧

【学部】平成25年度　地域産業界連携教育力改革プロジェクト　行事実績一覧

	①メンタルタフネス講座	②自己理解促進プログラム	③地域産業連携プロジェクト	④三者協働によるインターンシップ	⑤連携推進	⑥ユビキタスキャンパス	⑦大学コミュニティ
通年			・プロジェクト管理システム開発支援			・学内IT環境の維持・管理・監視 （状況に応じて改善活動） ・ポータルサイトの運営・改善 ・Sozo Platz追加開発と運用 ・HandbookおよびSozo Platzの 活用推進策の検討 ・プロジェクト管理システム開発支援	
4月	・メンタルタフネス講座の結果測定・評価 ・ベーシック講座の結果測定・評価 （～5月）	3（水）　PROG実施 （対象：1年生） 20（土）PROG実施 （対象：2年生） ・スチューデントプロファイルシステム開発支援（4月～8月）	16（火）　キックオフ講演会 ・プロジェクトメンバーの決定		26（金）　第1回 東海A（教育力チーム）会議　参加	9（火）　プロジェクト管理アプリ導入支援 11（木）　〃 ・プロジェクト管理システムの情報更新 ・各種システムのユーザーアカウント作成 ・スチューデントプロファイルシステム開発支援 （4月～8月）	・前年度卒業生就業状況調査の集計・分析 （～5月）
5月	・セルフモチベーション講座の企画 （～6月）	18（土）　セミナー「動き始めたジェネリックスキルの育成と評価」（主催：学校法人河合塾、株式会社リアセック）　参加	17（金）　プロジェクトテーマの決定 プロジェクト計画書の作成 ・プロジェクト計画の策定 （目的・協働企業選定・確定）		18（土）　ワークショップ「教育改革の壁を破るチャレンジ」（主催：中部地域大学教育改革推進委員会） 参加 23(木)　第2回 東海A（教育力チーム）会議　参加	・携帯情報端末の配布準備	
6月	8（土）　セルフモチベーション講座 ・ｾﾙﾌﾓﾁﾍﾞｰｼｮﾝ講座の結果測定・評価 （～7月）			水曜日　キャリアセンター事前指導 （各週）　（実習先マッチング） （自己紹介書作成指導）	7日（金）　教育力改革フォーラム（第1回教育力向上研修会）実施 17（月）　教育効果測定・指導方法WG 第1回ミーティング	12（水）　携帯情報端末の配布と 25（火）　利用説明会 （対象：1年生）	・卒業生就職企業訪問（求人開拓等） （～3月）
7月	30（火）ビジネス研究講座			水曜日　科目担当教員による事前指導 （各週）　（自己紹介書の校閲指導）	1（月）　教育効果測定・指導方法WG 第2回ミーティング 8（月）　教育効果測定・指導方法WG 第3回ミーティング 30（火）　第1回就業体験講座　実施		
8月	・ビジネス研究講座の結果測定・評価		6(火)　中間発表会 ・パワーポイントによる発表 ・配布資料（A4用紙1枚2段組）の作成	※2参照 実習（1～2週間） 実習先訪問 （キャリアセンター） （就職委員会教職員） （専門ゼミナール担当教員）	26、27　東海A（教育力）チーム （月、火）　連携FD合宿研修　参加		
9月	・就職ガイダンス （～2月）	・就職ガイダンス （～2月）	27（金）　社会人基礎力評価シートによる評価 （教員面談・助言と自己行動計画作成） （社会人基礎力評価シートを基に実施） ・プロジェクトの推進 （～12月）	※3参照 報告会資料の作成指導・発表練習 （科目担当・専門ゼミナール担当教員）	3、4、5　平成25年度 教育改革ICT戦略大会（主催：公益社団法人私立大学情報教育協 （火～木）　会）　参加 12（木）　第2回就業体験講座　参加 10（火）　東海A（教育力）チーム連携FD 「社会のニーズに対応した教育改革に向けて」　参加 17（火）　産業界ニーズに対応した人材育成研修会（主催：中部経済産業局）　参加 ・キャリア形成の科目展開 （～12月） ・経営ビジネス講座の開催 （～12月）	11（水）　教員向けスチューデントプロファイルシステム（Sozo Passport）利用説明会 13日 （金）　学生向けスチューデントプロファイルシステム（Sozo Passport）利用説明会 17日 16日（月）スチューデントプロファイルシステム（Sozo Passport）本稼働開始	
10月				21（月）インターンシップ報告会 インターンシップ座談会 ※4参照 報告書作成指導 （科目担当・専門ゼミナール担当教員） （学内校閲後、企業担当者校閲）	2（水）　「産業界ニーズ事業特別セミナー」（主催：中部大学）　参加 21日（月）インターンシップに関する 企業担当者との座談会 （※1参照） 24（木）　第3回 東海A（教育力チーム）会議　参加 28（月）　第2回教育力向上研修会　実施		26（土）卒業生就業状況調査 27（日）　〃 28（月）学内企業説明会 （OBによる説明の実施）
11月				※4参照 報告書作成指導 （科目担当・専門ゼミナール担当教員） （学内校閲後、企業担当者校閲）	14日（木）平成25年度 第1回中部圏産学連携会議（主催：中部地域大学教育改革推進委 27（水）　教育効果測定・指導方法WG 第4回ミーティング 28（木）　産学協同就業力育成シンポジウム2013（主催：Future skills project研究会）　参	19日（火）プロジェクト管理アプリ ver.2.3 公開（iOS 7 対応）	
12月			17（火）成果発表会 ・パワーポイントによる発表 ・配布資料（A4用紙1枚2段組）の作成 ・ポスター形式	※4参照 報告書作成指導 （科目担当・専門ゼミナール担当教員） （学内校閲後、企業担当者校閲）		携帯情報端末の物品確認 （対象：情ビ3年）	
1月			23（木）社会人基礎力評価シートによる評価 （教員面談・助言と自己行動計画作成） （社会人基礎力評価シートを基に実施） 30（木）成果報告書（学生）作成 30（木）学生座談会	※5参照 報告書作成指導 （科目担当・専門ゼミナール担当教員） （企業校閲後の修正）	31（金）　シンポジウム「産業界ニーズに対応した初年次教育のチャレンジ」（主催：東海A （教育力）チーム）　参加 31（金）　平成25年度達成目標に係る評価報告提出	携帯情報端末の物品確認 （対象：経営1年・2年）	・卒業生就業状況年次調査の実施 （～2月）
2月		27、28　模擬面接講座の実施 （木、金） 22（土）PROG実施 （対象：1年生、2年事前）	5（水）　成果報告書（教員）作成 第3週　プロジェクト活動総括ミーティング 協力企業座談会 ・次年度計画の策定 プロジェクト実施に関する改良 自己内省支援方法の検討	8（土）　シンポジウム「インターンシップを通じた人材育成の成果」 （主催：東海Bチーム）　参加 9（日）　「教育的効果の高いインターンシップ普及推進シンポジウム」（主催：経済産業省）　参加	3（月）　第3回就業体験講座　実施 6(木)　第4回 東海A（教育力チーム）会議　参加 上旬　プロジェクト活動報告会 プロジェクトに関する 企業担当者との座談会 （※1参照） 18（火）　シンポジウム「PBLで育む教・職・学　－同志社大学プロジェクト科目の事例から－」（主催：東海Bチーム）　参加 上旬　第3回教育力向上研修会	携帯情報端末の回収 （対象：情ビ4年）	8（土）　学内企業説明会 （OBによる説明の実施）
3月	27（木）　ベーシック講座（2年生）	6、10　PROG実施（3年事後） （木、月）		20（木）報告書の完成・印刷	7（金）　本年度報告書提出 8（土）　大学教育改革フォーラムin東海2014（主催：大学教育改革フォーラムin東海2014実行委員会、名古屋大学高等教育研究センター）　参加		・卒業生就業状況追跡調査 （～4月）

※1　インターンシップ座談会に際し、参加企業より学生に求める資質等の産業界ニーズをヒアリング
※2　8/1～9/6の間で実習先ごとに日程を調整
※3　9/9、10および9/18～10/30の各週水曜日
※4　11/4～12/20の各週水曜日
※5　実習先企業からの校閲原稿の返却状況に応じて、学生ごとに個別に指導

平成 24 年度採択「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」
『地域産業界連携教育力改革プロジェクト』成果報告書 平成 25 年度版

平成 26 年 3 月 26 日　発行

編集発行　豊橋創造大学
地域産業界連携教育力改革プロジェクト委員会
（渉外部キャリアセンター内）

〒440-8511　愛知県豊橋市牛川町松下 20－1
TEL　050－2017－2104
FAX　050－2017－2112
http://www.sozo.ac.jp/